

東アジア文化遺産保存修復学会 の開催

去る10月16日から4日間に渡り、北京の故宫博物院にて東アジア文化遺産保存修復学会の第一回大会が開催されました。今回は学会発足後の記念すべき第一回大会で、34件の口頭発表と60件を超えるポスター発表があり、参加者200名以上という盛大な学会となりました。奈文研からは、2件の口頭発表（「携帯型蛍光X線分析法による高松塚古墳壁画漆喰に関する調査」、「日本における紺色ガラス玉の変遷に関する科学的研究」）、と1件のポスター発表（「イースター島モアイ像の劣化要因と保存処理に関する研究」）による報告がありました。

本大会は「東洋と西洋の文化遺産の理念と方法の比較」、「特色ある東アジアの文化遺産の保護」などを議題とし、様々な内容の発表がおこなわれました。日中韓の3ヵ国語、さらに諸外国からの参加もあるため、英語を含めた4ヶ国語での会議です。いろいろな言語が飛び交う中で、お互いの考え方や技術について、その違いと共通性を認識しあいつつ情報交換がおこなわれました。

各国の事情は様々で、文化財の保存修復の考え方も必ずしも一致するものではありませんが、気候風土や文化財の素材には類似したものも多く、共通の課題を抱えてもいます。本学会の活動を重ねることにより各国の専門家の間に、より多くの共通の認識が持てるようになればと思います。次回は2年後に中国で開催されます。

（都城発掘調査部 降幡 順子）



大会開幕式における学会長の挨拶